



SAFETY



監修 布目靖則 Yasunori Numome (中央大学教授)

安全スキー場

vol.2

安全なスノースポーツ環境の実現に向けて

危

DANGER





Check! チェック式

Check! 

1 コースマップや看板をチェック

かんばん

すべり出す前に、コース難易度やパトロール室の場所などを確認しておきましょう。また、全国共通ルールのほか、スキー場独自のルールが書かれている場合もあるので注意しましょう。



Check! 

2 用具には流れ止めを必ずつける

流れ止めのないスキーやスノーボードが斜面をすべり落ちると止まりません。下にいる誰かにあたっ大ケガをさせてしまうかも知れません。流れ止めを必ず確認しましょう。



危

危



Leash Cord




Ski Binding Brakes

スキーやスノーボードは、だれでも好きなところを自由にすべることができます。ただし、公共の場であるスキー場をすべる場合、滑走者は自身と他の滑走者の安全を守らなくてはなりません。全国スキー安全対策協議会では「スノースポーツ安全基準」を定め、滑走者に安全なスノースポーツの実践をよびかけています。このマニュアルには、「スノースポーツ安全基準」の要点や過去の事故事例をふまえ、スキー場内を安全に行動するためのポイントがまとめられています。事故なく楽しくすべるために役立ててください。

スキー場の行動規則


- 1 他人を傷つけたり、おびやかしたりしてはならない。
- 2 地形・天候・雪質・技能・体調・混雑等の状況に合わせてスピードをコントロールし、いつでも危険を避けるために止まれるよう、滑り方を選ばなければならない。
- 3 前にいる人の滑走を妨害してはならない。
- 4 追い越すときは、その人との間隔を十分にあげなければならない。
- 5 滑り出すとき、合流するとき、斜面を横切るときは、上をよく見て安全を確かめなければならない。
- 6 コースの中で座り込んではいけない。せまい所や上から見通せない所では立ち止まることも慎まなければならない。転んだときはすばやくコースをあけなければならない。
- 7 登るとき、歩くとき、止まるときは、コースの端を利用しなければならない。
- 8 スキーやスノーボードには、流れ止めをつけなければならない。
- 9 掲示・標識・場内放送等の注意を守り、スキーパトロール・スキー場係員の指示には従わなければならない。
- 10 事故に出あったときは救助活動と通報に協力し、当事者・目撃者を問わず身元を明らかにしなければならない。

Check! 

3 リフト乗車中の注意点

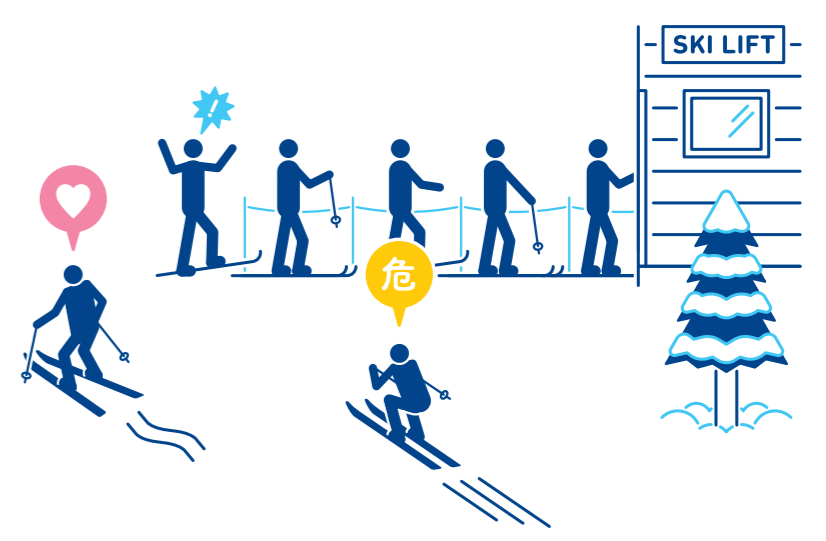
イス(搬器)に深く腰掛けて、セーフティーバーがあればそれを下ろします。イスを揺らしたり、後ろを向いたり、途中で飛び降りたり、ストックで柱にさわったりしてはいけません。



Check! 

4 リフト乗り場近くでは徐行

乗り場に向かって人が集まってくるので、混雑して衝突事故が起きやすくなります。いつでも止まったり曲がったりできるように、前もってスピードを落として近づきましょう。



Check!

5

合流地点では必ず安全確認 かくにん

多くの交通事故が交差点で起きているように、スキー場での衝突事故もコース合流点で多く発生しています。合流付近では、まずスピードを落とし、周りを見渡して安全確認しましょう。



Check!

6

立ち止まるときはコースの端で はし

コース中央部に座り込んだり、立ち止まったりしてはいけません。すべっている人の邪魔にならないようコース中央部を空けるのがマナーです。講習であっても同じです。

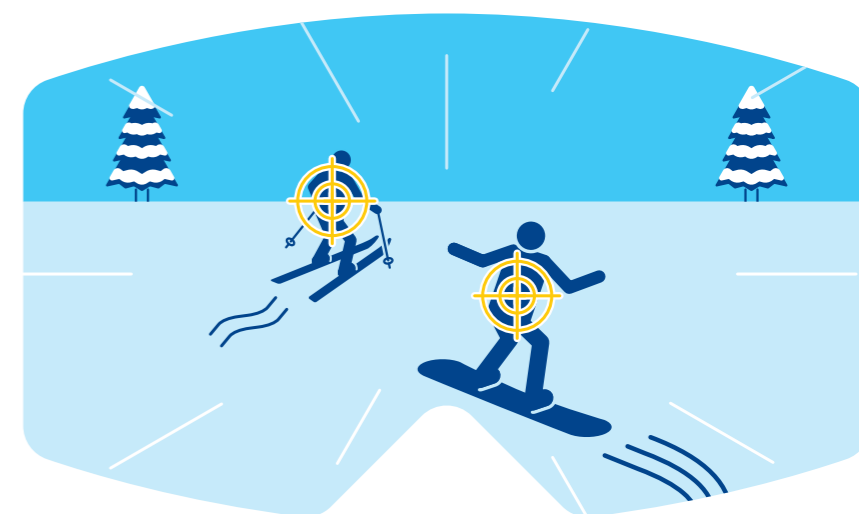


Check!

7

すべっている人の動きに注意する

周りの人のすべっていく方向やスピードを注視しましょう。お互いが近づきすぎると、とても危険です。特に、スノーボーダーのバックサイドターンには死角が多いので要注意です。



Check!

8

雪上車には近づかない

緊急時には、営業時間内であっても、例外的に雪上(圧雪)車が運行されることがあります。雪上車に巻き込まれると大ケガをしますので、絶対に近寄ってはいけません。

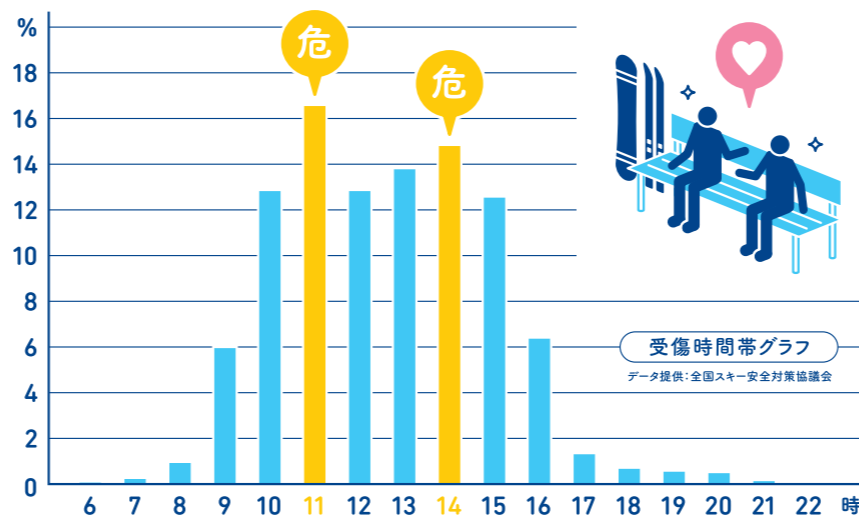


Check!

9

ケガの多い時間帯

スキー場におけるケガは、11時と昼食をはさんだ14時に多発します。雪質・雪面の変化、混雑具合などさまざまな原因が考えられますが、疲れを感じる前に休憩を入れることも大切です。



Check!

10

危険を知らせる竹矢来 きけん たけやらい

竹やプラスチックの長い棒でつくられた×印を“竹矢来”といいます。付近に危険があることを知らせる目印なので、近づいたり越えたりしてはいけません。

